

3 (1) 報告事項 「前回の懇話会について」

令和4年度第2回小山市立生涯学習センターの連携等に関する運営懇話会

会議結果報告書

1. 日 時 令和4年5月12日(木) 13:15~15:15
2. 会 場 文化センター 小ホール
3. 出席委員 17名出席(1名欠席)
4. 懇 話 会

◆議事及び事務局説明事項

- (1) 論点整理2(宇都宮共和大学 陣内雄次教授)
「まちづくりに関することの振り返りと小山市生涯学習センターへの期待」
- (2) 小山市立生涯学習センターの基本理念について
- (3) 市民の声を聴く機会について

上記について、報告及び説明を行い、ご審議をいただきました。
委員からの主な意見等は次のとおりです。

【委員の主な意見等】

質問・意見等	事務局回答
・小山城南交流センターは、公民館機能はないが、コミュニティセンターを併設して学びの場を提供している。P15の図にコミュニティセンターを追加していただきたい。	・ご指摘のとおり追加いたします。
・市民活動センターは、ただ単に市民活動をすればいいということではなく、生涯学習センターの学びが必要だと認識している。市民活動についての組織運営・マネジネメント、資金のまわし方、費用対効果等について確認・支援・アドバイスをする中で、生涯学習の学びというのは活動の栄養になっている。	

<p>・自分が今何か足りないけれど何かやりたいと思っている人が学びにくいところが生涯学習センターであり、そこを卒業して自主的にある程度行動できる人が集まって活動するところが市民活動センターである。生涯学習センターと市民活動センターは、実際に行われる活動が異質であるため、生涯学習センター関連施設の関係図は、今運営している形とリンクさせてもう少し実情に沿った形に近づけ、かつ理想的な方向にする議論が必要。</p>	
<p>・市民がいろいろと意見を出し合っ て持ち上げたものを生涯学習センターがまとめればよい。実践的に動く人をどれだけ増やせるかが重要である。</p>	
<p>・1つ1つの案件について、どこに話をもっていったらよいか明確でなかったところが問題。生涯学習センターがランドマーク的な位置づけになれば、生涯学習に関わる団体などが意見を1つにまとめるということが可能になるでは。</p>	<p>・実践されている方のいろいろな意見を聞くというのが大切だと感じました。またご意見をいただいて、生涯学習センターをどういう風にしていくかを考えるための資料にしていきたいと考えております。</p>
<p>・P15の「未来」の図の中央公民館の在り方について。かつては中央公民館が指導的な役割で各公民館の講座等をおこなってきた。各地区に公民館があるが、小山地区が「中央」というのはどうなのか。中央公民館は小山地区の公民館も一緒に担っているということか。</p>	<p>・生涯学習センターが生涯学習の拠点となれば、中央公民館は小山地区の公民館となる。その場合、名称が紛らわしいので、例えば「小山公民館」などといった形での名称変更も考えている。</p>
<p>・防災の事例について。小山の北部地区では水害の際、社会福祉協議会で声をかけて災害弱者に水を配った。地元はやる気がある。そこを広げていけばいい。</p>	<p>・特に防災については、地元の1人1人の働きが大切であり、そこに行政がどのように寄り添い支援していくか、また地元にも既にある協力体制などをどれだけ拾い集めていけるかが大切だと認識した。</p>

<p>・第4章の具体的施策・事業の4つの項目がすべて疑問形で終わっているのはなぜか。どういう意図でそのようにしたのか。</p>	<p>・職員や生涯学習センターを運営する者が講座を企画する際に、この視点を持てているかを自ら問い、チェックすることを忘れないようにするということを表しているため。</p>
<p>・防災の事例は、既に小山市でも行っている事業ではないか。社会福祉協議会が中心になってボランティアを集めて行っている事業がある。同じ事業を異なる部署で行っても意味がない。</p>	<p>・各公民館で同じことを行っているものもあれば、その地区ごとの伝統的なことや、繋いでいかなければならないことを行っているものもある。それらを重ならないように、または逆に重ねて周知したりなど選別しながら行っていきたい。</p>
<p>・各地にある自治会や市民交流センターが行う催し物を生涯学習センターが差配するというのは話が太枠過ぎる。市民活動として生涯学習センターが行わなければならない部分をもう少し絞った方が良い。 このまま進めると携わる人数や必要な建物面積が相当ないと実現できないのではないか。本当に実現可能なのかどうか考えないといけない。</p>	<p>・第4章4-2は、行いたい事業をたくさん盛り込んだ資料となっている。今後運営方針が決まり次第、具体的な実施計画でご意見を取り入れながら重要性・重複性について考えながら企画していきたい。</p>
<p>・防災について、大災害があったときに、どういう風に動くのか、一番最初に何をすればよいのかと消防にも言ったがわかっていない。災害時にどう動くのかを打ち合わせするなどして、リーダーとしての教育を生涯学習センター等で行わなくてはいけない。</p>	<p>・防災については、まず地域において自分はどんな立場で自分のいる場所はどんなところで、どう逃げなければいけないのかということ認識することから始まる。生涯学習ということで、まず気づきの部分を市民全体に広げていきたい。</p>
<p>・講座パッケージをつくって公民館を支援するというのは大きな力になる。重なってもいい部分・重ならない方がいい部分、いろいろなアイデアがいただけるのは素晴らしいことだと思った。</p>	

<p>・市民の声を聴く機会について、日にちがない。市民の方にどのように周知するのか。</p>	<p>・短期間での開催になってしまい申し訳ありません。これからホームページやLINE・関係団体などに周知していきたい。</p>
<p>・アンケートはどこにあるのか。</p>	<p>・今後、生涯学習センターや各公民館などに置く予定。</p>
<p>・生涯学習センターの在り方について生涯学習の中心機関であるということを決めきってしまっているのであれば、フォーラムを含め意見を聞いても意味がない。 これだけの方を集めてどういう方向性にもっていきたいのかが理解できない。本当にあり方を検討するのであれば、世代を超えていけないといけな。あり方を含めての検討なのか、運営についての検討なのか、はっきりとしていただきたい。</p>	<p>・1回目は導入、2回目は理念について、3回目はコスト面や具体的な運営についてお話をさせていただく。6回目までに、今後指定管理を続けていくほうがよいのか、市の直営に戻すほうがよいのかについて、基本理念などをお読みいただいた上で議論いただき、提言書をおつくりいただく流れになっている。</p>
<p>・まちづくりに関して、生涯学習センターというものがどのように関連するかが見えてこない。懇話会がまちづくりに対してどのように必要なのか、存在していけばよいのかということをも自分自身も考えたい。</p>	
<p>・まちづくりは人づくりということだが、人づくりが先ではないか。小山市の市政に関心を持ってもらい、自主的に動ける人づくりをするのがまちづくりでは。防災や高齢者・子ども会など世代を超えた問題を包含しているのだと思う。</p>	<p>・小山市のまちづくりは、工場誘致などのハード面と比べると、文化的なソフト面は立ち遅れてしまっているのではないかと懸念している。本当のまちづくりというのは、住んでいる市民の方々が「住んでよかった、素晴らしいまちだ」と思えるようなものだと考えているので、生涯学習をとおして素晴らしいまちをつくっていきたい。</p>

【その他】

- ・市民の声を聴く場が足りなかった。そこをもっと大切にしながら生涯学習センターの在り方を問い直していくような懇話会としたい。
 - ・5月21日の「これからの生涯学習を考えてみよう」については、非常に日程的に厳しいが、行うという方向であればたくさん周知していただきたい。アンケートについてはまだ日にちがあるので、しっかりとサンプルを集めて分析してもらいたい。
- また、5月21日はぜひ子どもたちや子育て中のお父さん・お母さん、障害のある方など、ダイバーシティ・次の世代ということを重視して幅広い方に参加してもらいたい。

◆質疑応答後、次回の日程(5/26開催)についてご連絡し、閉会しました。